

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		あさがおねっと大和田(放デイ)				公表日	2026年4月1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	3	学習スペースを設けたりと、メリハリをつえられるようにしている	大部屋が1つの事業所なので余暇時間のときのスペースの使い方を工夫したい	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	体調不良などで欠員が出た際に、他事業所から応援を呼ぶなどで対応している		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	視覚支援を意識したりとこどもたちにわかりやすい環境にすることを意識している	段差がある場所に関しては手すりをつけたりと改善する必要がある	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	行う活動に合わせて部屋の構造を変えたりとわかりやすいようにし、毎日の掃除を徹底している		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	2	限られた個室や落ち着けるスペースを必要に応じて使用している		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	2	事業所会議などで振り返りや目標設定をしている	より細かい目標設定をし、職員で共有し達成できるよう徹底する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	アンケート等で保護者様の意向を確認するとともに業務改善に努めている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	朝礼時や事業所会議等で意見を聞き、業務改善に努めている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4		外部評価を行い、業務改善できるようにする必要がある	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	3	職員が様々な研修に参加（オンライン含む）できるように努めている		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	ホームページにて公表している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	保護者様との面談等で課題を分析し明らかにしたうえで、計画を作成している		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	職員間の話し合いやケース記録を作成し、理解のもと作成している		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	2	作成した際に職員に共有している	専用ファイルをつくるなど見やすくなるよう工夫する必要がある	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	必要な項目を設定し、具体的な支援内容も設定している		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	事業所会議などで職員全員で意見を出し、プログラムを決定している		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	毎月内容や担当職員を変えて、活動プログラムが固定化されないように工夫している		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	こどもの状況や年齢にあわせて内容を考え、計画の作成と支援を行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2	朝礼時に必要な事を共有したり、グループラインなどに残すなどして日々の業務に努めている	その日いなかった職員にも確実に共有できるようなツールを考えたりと工夫したい
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	保護者様からの意見など気付いたことを共有している	共有忘れがないように、時間を設けるなど工夫したい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	日々ケース記録を書いたりするなど記録をとっている	記録を残すだけでなく、見直す習慣をつける必要がある
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	スタッフ主体ではなく保護者様のニーズを確認するようにしている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0	複数組み合わせ支援を行っている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	こどもたちの意見を聞き尊重できるようにしたり、選択肢を用意し自己選択できるように工夫している	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	児童発達支援管理責任者が参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	情報共有をし支援方法を一致させるようにしている	職員全員が把握できるように工夫が必要
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	他事業所と合同イベントを開催したりなどで活動の機会を設けている	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4		今後参加していきたい
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	毎回の送迎時などにこどもの状況について話し、共通理解をもっている	送迎時だけでは十分な時間の確保ができないことがあるので、工夫が必要
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	対応の仕方（不安定になった時の声かけなど）について伝えることがある	全ての職員がペアレントトレーニングできるように努める
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時に説明している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	モニタリングなどの面談で保護者様の意向を確認し、作成している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	2		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	悩みに対して職員間で共有し問題解決できるよう努め、助言をしている	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	苦情があった際には確認し、迅速に対応している。 苦情記録を残し、職員間で周知できるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0	SNSや紙面を通して発信をしている。	SNSなどの更新頻度をあげて、より多くの情報を伝えられるように努める
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	鍵付きの棚で書類の保管をしたり、全職員で徹底している	鍵に番号をふり、キーボックスに合わせて保管できるように努める。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	視覚優位の特性をいかし、言葉だけでなく視覚からも伝えていけるようにしている。	自閉傾向の強い児童にはシンプルな声かけ、考えがまとまらない時などは、時間をあけて声かけするなどの工夫を心がける。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		普段からの地域交流などを増やすことで、まわりの住民の方々と関わりを作っていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	マニュアルは書庫に番号を付けて保管している。	職員全体で書類の周知を徹底していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	2	防災訓練など定期的に取り組み、災害時の非常食、避難場所なども団体行動で行ったりしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0	面談時にアレルギーの有無を含めて、現在の服薬状況を確認するようにしている。	てんかんなどは実際に起きた時の経験が少ないのもあるので、職員全体でもし発作が起きた時の対応などの研修を設ける。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	保護者との情報共有に気を付けている。	アナフィラキシーなどの症状が出てしまった時の対応は、職員全体で周知するようにする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	2		不十分なところはあるので、これから行っていく必要がある。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	2		保護者への周知方法を決めながら、進めていく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ひやりはっとを書いて終わりではなく、全体での周知もしている。	ミーティングの際は、ひやりとした内容の振り返りを行うようにする。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2	3		研修をする月をあらかじめ年間で決めたりなどの取り組みが必要。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	2		どこからが身体拘束にあたるかの、全体での認識は確認し周知していく必要がある。	